

## 倶多楽の火山活動解説資料（平成 23 年 9 月）

札幌管区気象台  
火山監視・情報センター

火山活動に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。  
平成 19 年 12 月 1 日に噴火予報（平常）を発表しました。その後、予報警報事項に変更はありません。

### ○ 活動概況

#### ・噴気などの表面現象の状況（図 1-①、図 2～4）

日和山山頂爆裂火口の噴気の高さは火口縁上 100m 以下で、噴気活動は低調に経過しました。

21 日及び 27 日に現地調査を実施しました。サーミスタ温度計による日和山山頂爆裂火口の噴気温度は 2007 年以降やや高い状態が続いています。大正地獄は満水状態で、僅かに湯が流出していました。その他の火口の状況に特段の変化はありませんでした。

登別市によると、大正地獄では泥混じりの熱湯の噴出が 2007 年 5 月以降、消長を繰り返しながらも時々発生しています。この現象は局所的なものであり、火山活動の活発化に直接つながるものではないと考えられます。

#### ・地震及び微動の発生状況（図 1-②）

今期間火山性地震は観測されず、地震活動は低調に経過しました。  
火山性微動は観測されませんでした。

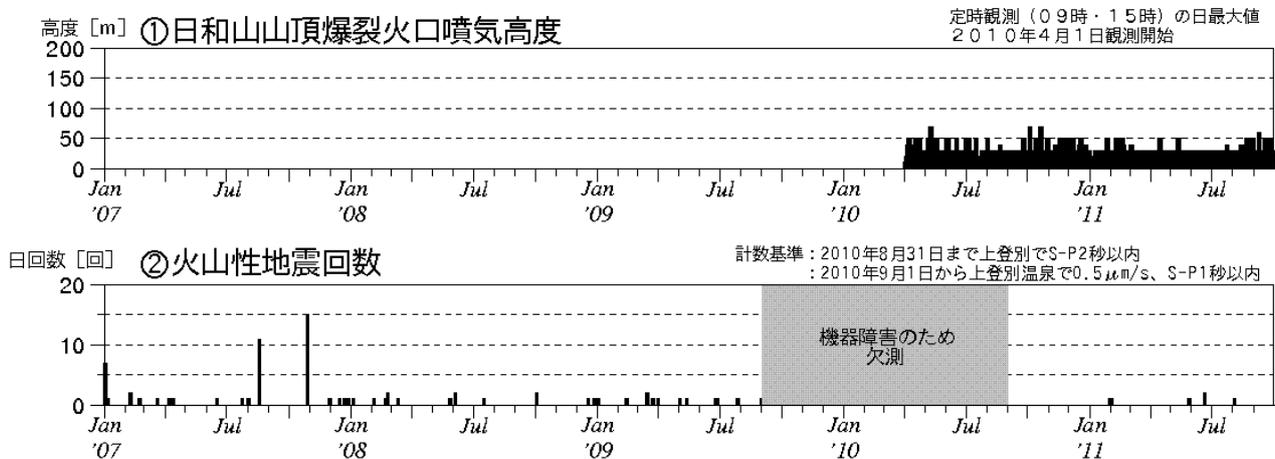


図 1 倶多楽 火山活動経過図（2007 年 1 月～2011 年 9 月）

この火山活動解説資料は札幌管区気象台のホームページ(<http://www.jma-net.go.jp/sapporo/>)や気象庁のホームページ(<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>)でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成 23 年 10 月分）は平成 23 年 11 月 9 日に発表する予定です。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号 平 20 業使、第 385 号）。

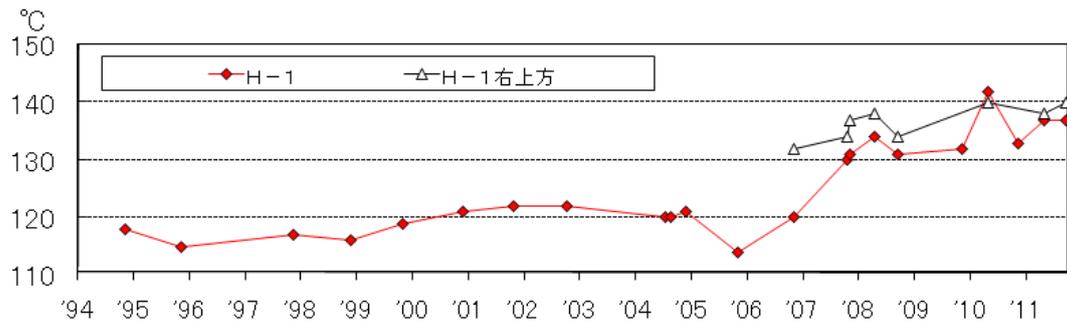


図2 倶多楽 日和山山頂爆裂火口の噴気温度経過 (1994年～2011年)



図3 倶多楽 日和山の噴気の状態及び大正地獄の湯量状況 (2011年9月21日、9月27日)



図4 倶多楽 日和山及び大湯沼周辺の状況 (9月20日、414m山遠望カメラによる)  
白丸内は日和山山頂爆裂火口の噴気

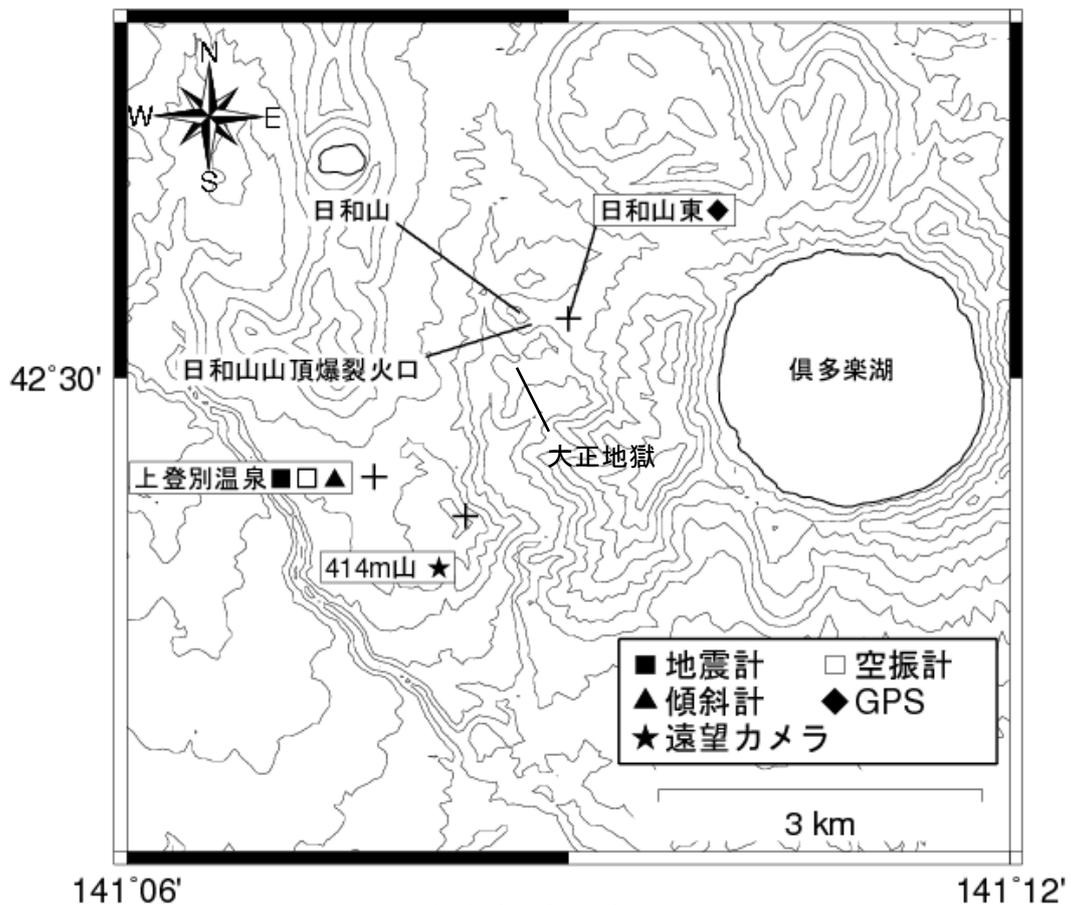


図5 倶多楽 観測点配置図  
+は観測点の位置を示す